

2025年度海外研修等参加報告書 MASCC/ISOO 2025 Annual Meetingに参加して

岐阜大学医学部附属病院薬剤部

藤井宏典
Hironori Fujii

はじめに

この度、日本医療薬学会 2025 年度海外研修等助成に採択いただき、2025 年 6 月 27 日から 29 日にアメリカ・シアトルで開催された MASCC/ISOO 2025 Annual Meeting（以下、本学会）に参加いたしましたので、ここにご報告いたします。

MASCC/ISOO 2025 Annual Meeting について

MASCC（国際がんサポーターブケア学会）2025 は ISOO（国際口腔腫瘍学会）との共同開催でした。本学会の全体テーマは「支持的がん医療における情報に基づいた意思決定」で、主要テーマは以下の 4 つでした。

- ①がんとその治療による慢性毒性管理における役割分担
- ②新興治療による新たな毒性
- ③支持的医療への新しいアプローチのための既存薬剤の転用
- ④経済的毒性：リスクと利益のバランス

発表内容

私は、がん悪液質の診断基準に関する研究について発表を行いました。現在、European Palliative Care Research Collaborative（EPCRC）基準と Asian Working Group for Cachexia（AWGC）基準という 2 つの診断基準が存在しますが、日本人患者にどちらを適用すべきかが不明でした。転移性大腸癌（metastatic colorectal cancer）患者 313 例を対象とした後方視的研究により、両基準による悪液質発症率を比較検討しました。その結果、1 年累積悪液質発症率は AWGC 基準で 69%、EPCRC 基準で 44% となり、AWGC 基準の方が早期検出に優れていることが示されました。さらに、全生存期間（overall survival）の解析では、両基準で定義された悪液質はいずれも予後不良と有意に関連し、AWGC 基準の方が予後との関連もより強いことが確認されました。また、実用的な代替マーカーとして modified Glasgow Prognostic Score（mGPS）の有用性も確認され、体重モニタリングが困難な場合の実践的な評価指標となり得ることを発表しました。



写真 1 MASCC/ISOO 2025 Annual Meeting 会場

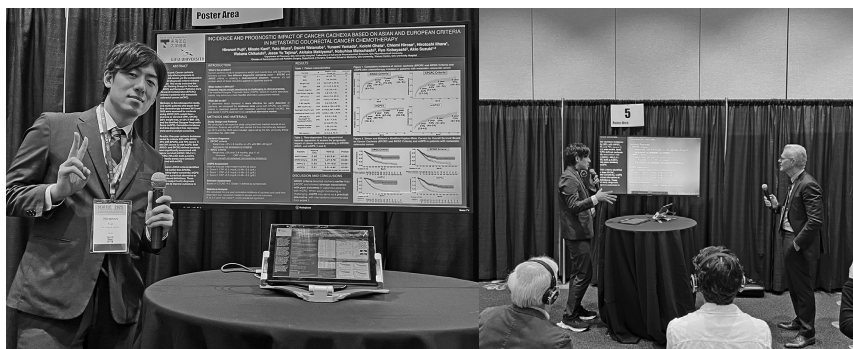


写真2 E-poster 発表 (2025年6月26日). 左:筆者, 右:筆者及び座長 (Dr. Egidio Del Fabbro)

質疑応答および部会活動

会場からは、AWGC 基準と EPCRC 基準の具体的な違いと重要因子について質問がありました。AWGC 基準には EPCRC 基準にない CRP が診断基準に含まれており、体重減少と CRP 上昇を合わせて評価することで早期発見・早期介入につながることの重要性を説明しました。

また、日本がんサポーターブケア学会 (JASCC) Cachexia 部会副会長として、MASCC の Nutrition & Cachexia 部会ミーティングにも参加しました。来年メルボルンで開催予定の MASCC2026 から提案するシンポジウムテーマについて議論し、栄養摂取を障害する症状 (NIS: nutrition impact symptom) の臨床応用や栄養療法などの介入に関するテーマが提案されました。

今後の展望

JASCC 及び MASCC の Cachexia 部会員として、両学会における薬剤師の役割と薬物療法の適正使用に関する取り組みを継続し、MASCC と JASCC

の連携を通じてがん悪液質マネジメントの発展に貢献していきたいと考えています。

また、本学会では様々な先生方と交流を深めることができました。医師で老年医学の専門家である Jose M. Garcia 氏とは、高齢者機能評価と悪液質に関する知見を共有しました。MASCC 理事で薬剤師の Alexandre Chan 氏とは、MASCC の今後の展望について意見交換を行い、栄養士の Kate Furness 氏とは、薬物療法を用いた効果的な栄養療法の実践について議論を交わしました。これらの交流は、今後の研究活動や学会連携につながる貴重な機会となりました。

おわりに

本学会参加の機会をいただいた日本医療薬学会関係者の皆様、共同研究者の先生方、そして本発表を支援いただいた岐阜大学医学部附属病院薬剤部の鈴木昭夫部長、飯原大稔副部長をはじめとする全職員の皆様に心より感謝申し上げます。



写真3 MASCC/ISCC 2025 Annual Meeting で交流を持った先生方. 左: Dr. Jose M. Garcia, 中央: Dr. Alexandre Chan, Dr. Hirotoishi Ihara, 右: Dr. Kate Furness